

飯豊だより

第2回合同安全パトロールを実施

・飯豊山系砂防事務所では管内で実施している工事について、労働災害や、公衆災害を未然に防止する事を目的として小国支部、関川支部の『合同』安全パトロールを隔月で実施しています。

平成24年1月26日（木曜日）に小国支部、関川支部合同による第二回『合同』安全パトロールを実施しました。



当日は積雪のある中、受注者の各工事現場代理人・監理技術者等7名、発注者監督職員を含む5名、各地区幹事2名、現場技術員1名の計15名で実施しました。

今回は関川地区の1工事（下赤谷砂防堰堤工事）について、降雪期における労働災害、公衆災害を防止する為に安全パトロールを行いました。

安全パトロール終了後、飯豊山系砂防事務所関川砂防出張所で点検結果報告を行い工事指摘事項は、以下のような内容でした。

- ・避難用仮橋の強度、ハシゴなどの昇降設備の管理、特に使えなくなったものは現場に置いておかない等の指摘があり、その後これら指摘事項は速やかに是正報告され安全な状態で作業が行われています。

工期末が迫る中、今冬は降雪量も多くなっており、より安全に対する意識が強く求められます。



勉強会を実施

・安全パトロール終了後、あんぜん北陸を資料とした冬期間の事故の状況、インフルエンザの状況、冬期における事故の事例等を協議会の関川支部幹事(株)富樫組を中心に説明して戴き、参加者で工事事故、労働災害及び公衆災害の発生原因や対策などの学習を通して情報を共有しました。



最後まで気を抜くことなく安全に配慮して施工していきます。

【トピックス】

冬季災害と主な対策

1. 転倒災害	通路の除雪、融雪、滑り止め
2. 墜落災害	親綱・安全帯、はしごの固定
3. 除雪機械災害	エンジン停止、立ち入り禁止、誘導
4. 交通事故	余裕の運行計画、スピードダウン
5. 火災	消火器設置、ストーブ真上で乾かさない
6. 一酸化炭素	有害性の教育、換気、練炭使用しない
7. 雪崩	雪崩危険箇所、天候・斜面の変化確認判断
8. 体調不良	手洗い・うがい、咳エチケット、早めの受診

建設業における一酸化炭素中毒予防のためのガイドライン
換気不十分な場所での内燃機関・練炭等による一酸化炭素中毒の予防

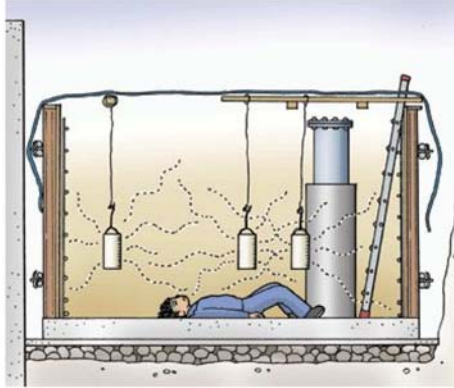
1. 作業責任者の選任
 - ① 作業手順書作成し手順書に基づき作業指揮
 - ② 関係者以外立ち入り禁止の措置と表示
 - ③ 呼吸用保護具の適正使用状況の確認
 - ④ 次の事項の確認と報告
2. 作業管理

① 作業開始前	③ 作業終了後
1. 機材、警報装置の点検	1. 使用済み防毒マスク吸収缶の破棄
2. 呼吸用保護具の確認	2. 呼吸用保護具の清掃保管
3. 一酸化炭素の有害性の周知	④ 異常時の措置
4. 換気と濃度測定	1. 速やかに退避
② 作業中	2. 換気と濃度測定
1. 継続的換気	3. 呼吸用保護具の着用
2. 継続的濃度測定	4. 原因調査と改善及び安全の確認
3. 呼吸用保護具の適時使用	
4. 手順書にそった作業	

6. 一酸化炭素
災害防止対策

3. 作業環境管理
 - ① 十分な換気
 - ② 濃度測定
 - ③ ファンの風量実測
4. 警報装置
 - ① 作業場所毎に設置
 - ② 作動確認、ゼロ調整
 - ③ 日常点検、定期点検・整備
5. 呼吸用保護具
 - ① 酸素濃度18%以上…防毒マスク
 - ② 同上 18%未満…送気マスク又は自給式呼吸器
- ③ JIS規格品の使用
- ④ 専任の監視者による監視と異常時の通報
- ⑤ 呼吸用保護具の適正着用方法の周知
6. 健康管理
 - ① 雇い入れ時健康診断、定期健康診断
 - ② 実施結果による適切な措置
7. 労働衛生教育
 - ① 雇い入れ時等の教育
 1. 一酸化炭素の有害性
 2. 呼吸用保護具の使用方法
 3. 警報装置、換気設備の使用法
 4. 関係法令その他
 - ② 日常の教育
 1. 一酸化炭素の有害性
 2. 換気設備及び呼吸用保護具の使用法
 3. 当日の作業手順
 - ③ 緊急時の訓練
 1. 避難及び緊急連絡訓練

練炭養生中の取水ボックス内に入り一酸化炭素中毒



ボックス底部のコンクリートを養生するためビニルシートで覆い練炭コンロをつり下げ事務所に戻った。帰宅してから午後8時頃家族に「現場の様子を見てください」と言い残して自宅を出た。深夜になっても帰宅しないので、携帯電話で呼び出したが連絡が取れなかった。翌朝、取水ボックス内で一酸化炭素中毒により仰向けに倒れて死亡している被災者が発見された。

CO中毒の救急措置と治療

救急措置

- ・COの無い場所まで救出・搬送
二次災害の防止…救出に向かう人 CO検知警報機 吸気式マスク
- ・救命措置
救急車手配(平行して) → 気道確保 → 呼吸の確認 → 人工呼吸 → 心臓マッサージ → AEDの活用

対策

1. 作業責任者を選任し、適切な作業指揮を行わせる。
2. 養生場所に入る前に十分な換気を行い、換気の効果を一酸化炭素ガス濃度計で確認する。
3. 換気効果が十分に確認されている場合を除き、有効な呼吸用保護具を使用する。
4. 換気、呼吸用保護具の使用、濃度の測定、緊急時の対応などを記載した作業手順書作成する。
5. 練炭養生の有害性およびその対処方法などの教育の実施、避難や連絡体制などの訓練を行う。

CO中毒の危機管理

・緊急時

- ・携帯型の酸素発生装置(スプレー缶など)の常備
被災者に現場でいち早く酸素吸入…その後の経過改善の可能性
- ・専門施設(高圧酸素療法)の確認、緊急時連絡体制確保

・日常

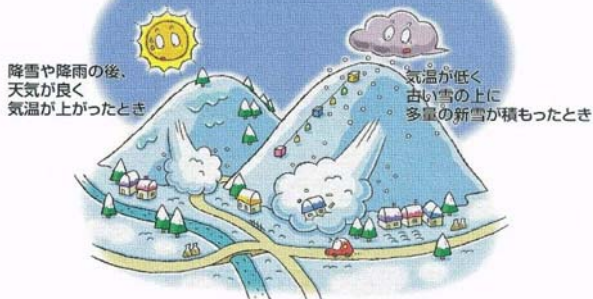
- ・測定器(警報装置)による濃度測定
作業開始前、作業中、作業箇所毎に常備
- ・呼吸用保護具を人数分以上常備
防毒マスク又は送気マスク又は自給式呼吸器
- ・教育の実施(新規及び都度、繰り返し)
COの有害性、呼吸用保護具の使用法、緊急時の対応、など

7. 雪崩 災害防止対策

工事を行う場合の注意点

- 過去の雪崩の情報をつかむ
- 天気予報「警報」「注意報」の把握
- 危険区域に休憩所トイレ等設置しない
- 待避場所と待避通路の確保
- 監視と通報・警報

こんなとき… なだれ 雪崩の危険信号です。



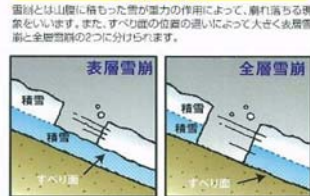
作業禁止基準 雪崩が予想される場合

- 24時間に30cm以上の降雪
- 急激な気温の上昇または低下
- 激しい降雨
- 斜面上に亀裂やしわ

雪崩の速度



雪崩の種類



雪崩対策事業

怖い雪崩災害から地域を守るための雪崩防止施設が建設されています。

●砂防工事建設現場などでも雪崩が発生する可能性があります。十分に注意してください。



注意点 その2

- 作業開始前の **斜面確認**
- 作業中止基準の把握と **中止の決断**
- **重機通過時及び直後は立ち入らない**
- **集団にならない**、間隔を大きく確保する
- **スコップ**等を常備する

雪崩にあったら

- 顔面周囲の **空間確保**し **深呼吸を続ける**
 - ・数分間は雪中に60～70%空気存在
 - ・生存可能性15分間で93%
- 濡れた衣類は脱がせる
- 毛布等使用し暖かい部屋に移動
- 身体は水平、**マッサージ厳禁**、**振動厳禁**